

2026 年 9 月 18 日

Press Release

大正⇄令和アヴァンギャルド展

萬鐵五郎、棟方志功から現代アートまで

Taisho⇄ Reiwa Avantgarde

会期：2026 年 12 月 4 日（金）－ 2027 年 5 月 16 日（日）

会場：弘前れんが倉庫美術館（青森県弘前市）

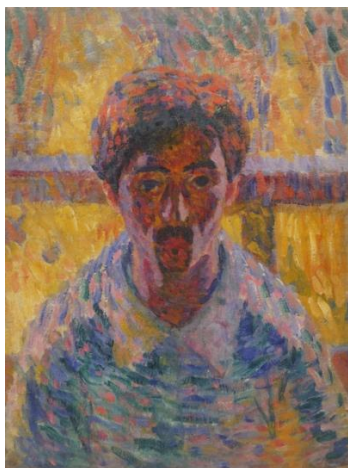
出品作家：

【大正時代の作家】阿部合成、大川亮、池田淑人、今純三、小西正太郎、下澤木鉢郎、鷹山宇一、橋本花、羽場金司、福田剛三郎、松山忠三、棟方志功、萬鐵五郎 ほか

【令和の作家】泉田剛、市原えつこ、おおだいらまこ、小森はるか+瀬尾夏美

当館コレクションより出品：雨宮庸介、笹本晃、畠山直哉

100 年を隔てた二つの時代の「アヴァンギャルド（前衛）」を弘前でたどる



萬鐵五郎《点描風の自画像》1912年頃
岩手県立美術館蔵



市原えつこ+ISID イノラボ《都市のナマハゲ - Namahage in Tokyo》2017 年

弘前れんが倉庫美術館では、2026年12月4日（金）から2027年5月16日（日）まで、「大正⇄令和アヴァンギャルド展」を開催します。本展は、「アヴァンギャルド（前衛）」をキーワードに、20世紀初頭の大正時代、青森を中心とする北東北の作家たちの作品と、2019年に始まる令和に活動する現代の作家たちの作品を紹介します。

大正と令和の作家たちは、ともに目まぐるしく変化する社会の中に生きています。本展では、社会の大きな波に流されることなく、それぞれの立ち位置から新しい表現を切り拓く試みを「アヴァンギャルド（前衛）」の姿勢と位置付け、北東北における「前衛」とはどこにあるのか、再考する機会となることを目指します。

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川

TEL：0172-32-8950 FAX：0172-55-5982 E-mail：press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1

大正時代の社会変革と弘前の動き

大正時代（1912-1926年）は、現代に続く生活の基盤や価値観が形作られた時期でした。義務教育の普及により、日本の就学率や識字率は1926 [大正15/昭和元]年の時点で100%近くまで向上します。人々の政治への関心も高まり、大正デモクラシーと呼ばれる思潮や社会運動を通じて、民主主義や自由主義の概念が浸透します。1925 [大正14] 年の男子普通選挙法成立が国民の政治参加をうながす一方、反戦、反体制の声を押さえ込む治安維持法も同時に成立しました。さらに、平塚らいてうが発起人となった、日本初の女性による文芸団体「青鞥社」が創立されるなど、新しい女性像が目指された時代でもありました。こうした変化の波は地方にも届きます。たとえば弘前では、専門的な裁縫技能を身につけることで女性の自立を支援した「弘前和洋裁縫学校」（1923 [大正12] 年創立、現「学校法人柴田学園」）の開校をはじめ、新しい教育や文化の実践が生まれました。

北東北の「アヴァンギャルド」

大正時代の芸術家たちは、海外留学だけでなく、雑誌や書物などを通じてヨーロッパの美術における最新の動向に刺激を受けながら、それぞれの表現を模索しました。

大正時代の北東北において、「アヴァンギャルド」とはどのような意味を持っていたのでしょうか。当時、東京へ出て美術を本格的に学ぶ機会は、経済的な支援を受けられる作家に限られ、洋画家として活動しようと決意すること自体が、前衛的で「異端」な試みでした。

メディアの登場、普及から令和の「分断」へ

この時代には、新聞や雑誌を読むことが一般化し、1925 [大正14]年にはラジオ放送も始まり、マスメディアを通じて人々は世界情勢を知るようになります。大正時代は、情報の共有を通じて、共通の価値観や集団的な記憶を形成し「はじまりの時代」であったといえるでしょう。大正時代の終わりから100年を経た令和の現在、SNSを通じた情報の共有が主流となり、誰もが手軽に情報を得て、自らも発信できる場を手に入れられるようになりました。一方で、オンラインのコミュニティは同じ価値観を持つ人々の間で閉じられ、異なる意見を排除し合うような「分断」も生じています。かつて、テレビや新聞などのマスメディアを通して人々が共有していた、共通の知識、集団的な記憶や価値観は失われつつあるのかもしれません。

本展では、大正時代の作品とともに、それぞれの方法で問いをたて、記憶や記録のあり方と向き合う4組の現代の作家による作品を展示します。現代の社会でもとめられる即時性や効率性とは異なる時間軸から、独自の視点で記憶や記録と向き合う彼らの姿勢を、今この時代における「アヴァンギャルド」のひとつの形として捉え、紹介します。

出品作家

【大正時代の作家】

松山忠三	まつやま ちゅうぞう	1880-1954年、青森県北津軽郡板柳町生まれ
大川亮	おおかわ りょう	1881-1958年、青森県大光寺村（現・平川市）生まれ
萬鐵五郎	よろず てつごろう	1885-1927年、岩手県和賀郡東和町（現・花巻市）生まれ
小西正太郎	こにし しょうたろう	1876-1956年、秋田県仙北郡六郷町（現・美郷町）生まれ
羽場金司	はば きんじ	1886-1916年、青森県弘前市生まれ
福田剛三郎	ふくだ ごうざぶろう	1886-1977年、青森県八戸市生まれ
池田淑人	いけだ よしと	1886-1981年、秋田県秋田市生まれ
今純三	こん じゅんぞう	1893-1944年、青森県弘前市生まれ
下澤木鉢郎	しもさわ きはちろう	1901-1986年、青森県弘前市生まれ
棟方志功	むなかた しこう	1903-1975年、青森県青森市生まれ
橋本花	はしもと はな	1905-1983年、青森県青森市生まれ
鷹山宇一	たかやま うちいち	1908-1999年、青森県七戸町生まれ
阿部合成	あべ ごうせい	1910-1972年、青森県青森市生まれ
ほか		

※会期中に一部展示替えがあります

【令和の作家】

泉田剛 いずみだ ごう

2001年、青森県弘前市生まれ。東京と弘前を拠点に活動。2024年武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業。建築を起点に、解体と記憶の継承を主題として制作を行う。使われなくなった建築や放置された構造物を解体・再構成し、彫刻へと転換する実践を展開。彫刻、建築、グラフィックデザインの領域を横断しながら、建物の解体を単なる消失ではなく、土地に蓄積された記憶や風景を次の時間へと引き継ぐための方法として捉え直す。2025年、プロジェクト「解体と記憶／Disassembly and Memory」が文化庁「メディア芸術クリエイター育成支援事業」に採択。

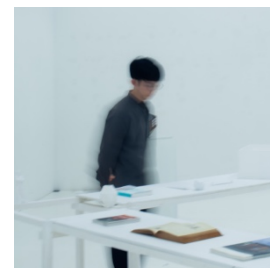


Photo by Hayate Yagi

市原えつこ いちはら えつこ

1988年、愛知県生まれ。東京を拠点に活動。2025年東京藝術大学大学院先端芸術表現専攻修了。日本的な文化・習慣・信仰を独自の観点で読み解き、テクノロジーを用いて新しい切り口を提示する。美術の文脈に依らず広く楽しめる作品性と日本文化に対する独特のデザイン的な視点を取り入れ制作を行う。主な個展に「デジタル・シャーマニズム ―日本の吊いと祝祭」（ICC、東京、2016年）、「ディストピア・ランド」（CCBT、東京、2025年）。第16回光州ビエンナーレ「UCCN Pavilion」（韓国、2026年）、「Ars Electronica Festival 2025: Panic」（オーストリア、2025年）、「New Eden」（ArtScience Museum、シンガポール、2023年）などの国際展にも参加。

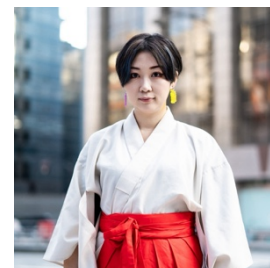


Photo by Yujiro Ichioka

おおだいらまこ

1995年、青森県黒石市生まれ。秋田県を拠点に活動。2021年尾道市立大学大学院美術研究科油画コース修了。絵画作品と鑑賞者を含めた展示空間を主題に制作を行う。鑑賞者と絵画作品との関係性への問いを起点に、展示形態そのものの再考や、平面性にとどまらない絵画作品の制作を通して、「新しい絵画」の可能性を探求している。最近は、鑑賞者による作品の写真撮影に着目し、その行為によって生まれる作品との関係性や体験をテーマに制作を展開している。個展「青天#」（横濱ゲートタワー Start Gallery 2+4、神奈川、2024年）、公募展「Idemitsu Art Award 2025」（国立新美術館、東京、2025年）など。



小森はるか+瀬尾夏美 こもり はるか + せお なつみ

小森はるか：1989年、静岡県生まれ。埼玉県を拠点に活動。東京藝術大学美術学部先端芸術表現科修了。

瀬尾夏美：1988年、東京生まれ。東京を拠点に活動。東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。

東日本大震災後のボランティア参加をきっかけにユニットとしての活動開始。2012年より3年間、陸前高田市に暮らしながら制作に取り組む。2015年仙台にて土地と協働しながら記録をつくる組織・一般社団法人NOOKを設立。ユニットとして全国各地に赴いてフィールドリサーチを行い、制作と対話の場づくりを行う活動とともに、小森、瀬尾個人としても映像作品や著作を発表している。グループ展に「ニューアートシーン・イン・いわき 小森はるか+瀬尾夏美」（いわき市立美術館、福島、2024年）、「コレクション・ハイライト+ コレクション・リレーションズ 2023-II」（広島市現代美術館、広島、2023年）、「記憶は地に沁み、風を越え 日本の新進作家 vol. 18」（東京都写真美術館、東京、2021年）など。



Photo by Naoshi Fuda

■当館コレクションより出品

雨宮庸介	あめみや ようすけ	1975年、茨城県水戸市生まれ
笹本晃	ささもと あき	1980年、神奈川県横浜市生まれ
畠山直哉	はたけやま なおや	1958年、岩手県陸前高田市生まれ

展覧会のみどころ

大正時代に芽吹いた北東北の「異端児」たちによる独自の表現

本展の冒頭では、青森を中心として岩手と秋田を含む北東北で大正期に活動した作家や関連資料を紹介します。明治末期から大正期にかけて、画家を目指す若者たちの間に広がった技法として油彩画が挙げられます。北東北でも、萬鐵五郎が参加した岩手県の「北虹会」をはじめ、複数の洋画団体が生まれました。岩手出身の萬鐵五郎（1885–1927）は、東京美術学校卒業後に故郷の土沢（現・花巻市東和町土沢）へ戻り、東京の画壇から離れて造形の探究に没頭します。青森市出身の棟方志功（1903–1975）はゴッホに強い憧れを抱き、青森の仲間たちと洋画団体「青光画社」を結成して、独学で絵画の研究を重ねます。弘前生まれの今純三（1893–1944）は関東大震災を機に青森へ戻り、兄・今和次郎の考現学調査に同行して故郷の風俗を記録したほか、青森の美術教育の礎を築きました。それぞれの境遇の中で独自の表現を切り拓いた作家たちの姿勢から、大正期の油彩画における「前衛」の姿を探ります。



今純三《バラライカ》1919年
弘前市立博物館蔵

令和に新たな表現を切り開く、東北ゆかりの作家・作品を紹介

人々が共有する「大きな物語」が失われつつある現代。本展では、それぞれの方法で問いを立て、社会と向き合うことで生まれた現代の作家たちの作品を紹介します。市原えつこは、秋田県男鹿市の伝統芸能「ナマハゲ行事」を都会へ移植し、伝統から切り離れた機能としての祭事に注目して作品化したり、人型ロボットを用いて故人の記憶を現代テクノロジーと融合させ新たな吊いや祈りの形として可視化したりするなど、伝統と現代社会の接点をユーモラスに探ります。小森はるか+瀬尾夏美は、東日本大震災を機に被災地へ足を運び、個々人の体験や思いを語り直すことを通して、土地の記憶を紡ぐことを試みてきました。弘前市出身の泉田剛は、役割を失った建物を解体し、新たなモニュメントを作り、未来の遺跡として残そうとします。青森県黒石市出身のおおだいらまこは、日常の中で撮影した写真をもとに絵画を制作し、デジタルとアナログを横断しながら現実のイメージに加筆を繰り返すことで、個人の記憶の正しさとは何かを問い直します。



市原えつこ《デジタル
シャーマン・プロジェ
クト》2015年ー



小森はるか+瀬尾夏美《二重のまち／四つの旅のうた》2020年
©KOMORI Haruka + SEO Natsumi



おおだいらまこ《食卓》2026年
作家蔵



泉田剛《解体と記憶》2025年 作家蔵 Photo by Hayate Yagi

「日本で見られるアート 100 選」選出の笹本晃作品を展示

笹本晃《スピリッツの3乗》は、当館のコミッションワークとして制作された大型インスタレーションです。開館記念展「Thank You Memory — 醸造から創造へ —」（2020年）で初公開された本作は、美術館となる前の煉瓦づくりの酒造工場や、倉庫だった頃の空間に残されていた窓や扉を用いて構成されています。かつてこの場所に存在した人々の気配に想いを巡らせ、空間に新たな風を吹き込みます。

本作は、国内美術館が収蔵する優れた作品のひとつとして、国立アトリサーチセンターが実施する「日本で見られるアート100選」（「日本の現代アート」部門）に選定されました。



笹本晃《スピリッツの3乗》2020年
弘前れんが倉庫美術館蔵 Photo by Naoya Hatakeyama



雨宮庸介《H&T, A,S&H, B&W. (ヒール&トゥー、アップル、ストーン&ヒューマン、ブラック&ホワイト)》
（部分）2022年 弘前れんが倉庫美術館蔵
Photo by Ryo Narita

プレスツアー

開幕初日に、プレスツアーを実施します。

出席予定の作家 | 泉田剛、おおだいらまこ、小森はるか+瀬尾夏美

日時 | 2026 年 12 月 4 日 (金) 14:00 - 15:00

集合場所 | 1 階 エントランス

本展関連プログラム

会期中にトーク、作品上映、ワークショップ、解説ツアーなど多数のプログラムを開催します。

詳細は当館ウェブサイトで順次公開します。

開幕セレモニー

日時 | 2026 年 12 月 4 日 (金) 15:15 -

会場 | 1 階 エントランス

アーティスト・リレートーク

出演 | 泉田剛、おおだいらまこ

日時 | 2026 年 12 月 5 日 (土) 13:00 - 14:00

会場 | 展示室内

料金 | 無料 (要観覧券)

申込み | 不要

学芸員による解説ツアー

日時 | 2026 年 12 月 12 日 (土)、2027 年 1 月 9 日 (土)、2 月 13 日 (土)、3 月 13 日 (土)、
4 月 10 日 (土)、5 月 8 日 (土) 各日 14:00 - 14:30

料金 | 無料 (要観覧券)

申込み | 不要

集合場所 | 1 階 受付前

ナイトツアー：テクニカル・ディレクターと見る展覧会の裏側

通常一般には公開されない展覧会設営の舞台裏や、展示に関する具体的な解説を交えながらご案内します。

ガイド | 澤田諒 (弘前れんが倉庫美術館 テクニカル・ディレクター)

日時 | 2027 年 1 月 16 日 (土) 17:30 - 18:30

会場 | 展示室内

料金 | H-MOCA メンバーズ 無料、お試し参加 2,000 円

申込み | 予約優先 WEB (Peatix) または 電話 0172-32-8950

「H-MOCA メンバーズ」は、弘前れんが倉庫美術館をともに楽しみ、活動を支えるメンバーシップ制度です。年間フリーパスをはじめ、さまざまな特典を用意しています。

年会費 | 一般: 5,000 円 ユース (25 歳以下): 2,000 円 シニア (65 歳以上): 2,000 円

詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

作品上映＋アーティストトーク

■上映 『波のした、土のうえ』（2014 年、小森はるか＋瀬尾夏美監督作品）上映時間 68 分

日時 | 2027 年 3 月 14 日（日）①10：30－ ②15：00－

2027 年 5 月 8 日（土）①10：30－ ②15：00－

会場 | スタジオ B

料金 | 一般 1,000 円、大学生・専門学校生・H-MOCA メンバーズ 500 円、高校生以下無料

定員 | 各回 30 名

申込み | 予約優先 WEB（Peatix）または 電話 0172-32-8950

■トーク

出演 | 小森はるか＋瀬尾夏美

日時 | 2027 年 3 月 14 日（日）13：00－14：00

会場 | スタジオ B

料金 | 無料（要観覧券または『波のした、土のうえ』上映チケット）

定員 | 40 名

申込み | 予約優先 WEB（Peatix）または 電話 0172-32-8950

おおだいらまこ トーク＋ワークショップ

日時 | 2027 年 3 月 27 日（土）13：30－16：30

会場 | スタジオ B

料金 | 無料（要観覧券）

申込み | 予約優先 WEB（Peatix）または 電話 0172-32-8950

トーク「大正期の青森の画家たち（仮）」

出演 | 對馬恵美子氏（元青森県立郷土館学芸員）

日時 | 2027 年 4 月 24 日（土）14：00－15：30

会場 | スタジオ B

料金 | 無料（要観覧券）

定員 | 40 名

申込み | 予約優先 WEB（Peatix）または 電話 0172-32-8950

泉田剛 トーク＋街歩きワークショップ

日時 | 2027 年 5 月 1 日（土）13：30－16：30

料金 | 無料（要観覧券）

申込み | 予約優先 WEB（Peatix）または 電話 0172-32-8950

展覧会カタログ

本展の公式カタログは、会期中に発行予定です。

同時開催の展覧会

コレクション展 2026-2027

新収蔵作品を中心に、5名の作家を特集します。

出品作家 |

杉戸洋、永沢碧衣、奈良美智、蜷川実花、服部一成

※観覧料は「大正⇄令和アヴァンギャルド展」と共通



杉戸洋《untitled》2025年 弘前れんが倉庫美術館蔵
Photo by Ryo Narita

その他のプログラム

「れんが倉庫部」による建築ガイドツアー

当館のボランティアプログラム「れんが倉庫部」の部員がガイド役となり、館内を巡りながら建物の歴史や見どころを解説します。

日時 | 2026年12月19日（土）、2027年1月16日（土）、2月20日（土）、3月20日（土）、
4月17日（土）、5月15日（土）各日 11:00–11:30

料金 | 無料

申込み | 不要

集合場所 | 1階 エントランス

新春イベント「美術館のお正月 2027」

日程 | 2027年1月2日（土）、1月3日（日）

学芸員による H-MOCA レクチャー「永沢碧衣《山懐を満たす》」

講師 | 宮本ふみ（弘前れんが倉庫美術館 ラーニング・キュレーター）

日時 | 2027年1月23日（土）14:00–15:00

会場 | ライブラリー

料金 | 無料

館長による H-MOCA レクチャー特別編「風景を描くとは？—蜷川実花と永沢碧衣を中心に—」

講師 | 木村絵理子（弘前れんが倉庫美術館 館長）

日時 | 2027年3月3日（水）17:30–18:30

会場 | スタジオ B

料金 | H-MOCA メンバーズ 無料、お試し参加 1,500 円

開催概要

展覧会名 [和] : 大正⇄令和アヴァンギャルド展

展覧会名 [英] : *Taisho⇄Reiwa Avantgarde*

会期 : 2026 年 12 月 4 日 (金) - 2027 年 5 月 16 日 (日)

会場 : 弘前れんが倉庫美術館 (青森県弘前市吉野町 2-1)

開館時間 : 9 : 30 - 17 : 00 (12 月 ~ 2 月 28 日)

9 : 00 - 17 : 00 (3 月 1 日以降)

入館は閉館の 30 分前まで

休館日 : 火曜日 (ただし 2 月 23 日、4 月 13 日、20 日、27 日、5 月 4 日は開館)、
12 月 26 日 (土) - 1 月 1 日 (金)、2 月 24 日 (水)、5 月 6 日 (木)

観覧料 [税込] : 一般 1,600 円、大学生・専門学校生 1,000 円、高校生以下 無料

弘前市民料金 : 一般 1,000 円、大学生・専門学校生 500 円

(要証明書提示、他の割引との併用不可)

※その他以下の方は無料

弘前市内の留学生の方 / 満 65 歳以上の弘前市民の方 / ひろさき多子家族応援パスポートをご持参
の方 / 障がいのある方と付添の方 1 名

主催 : 弘前れんが倉庫美術館

協賛 : スターツコーポレーション株式会社、株式会社大林組、

株式会社 NTT ファシリティーズ

後援 : 東奥日報社、デーリー東北新聞社、陸奥新報社、青森放送、青森テレビ、
青森朝日放送、エフエム青森、FM アップルウェーブ、弘前市教育委員会

一般問合せ : TEL 0172-32-8950

アクセス : JR 弘前駅より

- 弘南バス・土手町循環バス「中土手町」下車 徒歩 約 4 分

- 徒歩 約 20 分

- タクシー 約 7 分

当館には駐車場はありません

公共交通機関をご利用いただくか、近隣の有料駐車場をご利用ください

本展ウェブサイト : <https://www.hirosaki-moca.jp/exhibitions/avant-garde/>

SNS : Instagram / X / Threads @hirosaki_moca

Facebook @hirosaki.moca

美術館について

弘前れんが倉庫美術館は、明治・大正期に酒造工場として建設され、戦後はシードル工場として使われた煉瓦造の建物です。建築家の田根剛が改修を手がけ、2020年に現代美術館として開館しました。弘前をはじめとする東北地域の歴史や文化を継承しつつ、この土地や建物に呼応するような、国内外の先進的なアーティストたちによる作品を紹介しています。

ウェブサイト : <https://www.hirosaki-moca.jp/>



弘前れんが倉庫美術館 外観
©Naoya Hatakeyama

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当: 大澤、石川

TEL : 0172-32-8950 FAX : 0172-55-5982 E-mail : press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1

2026 年 9 月 18 日

■メールでの申請：弘前れんが倉庫美術館 E-MAIL: press@hirosaki-moca.jp

■WEB での申請：専用フォーム <https://forms.gle/e7BauhVXDUMfXx9a8>

「大正⇄令和アヴァンギャルド展」

広報画像申請書

会期：2026 年 12 月 4 日（金）－ 2027 年 5 月 16 日（日） 会場：弘前れんが倉庫美術館（青森県弘前市）

▼貴媒体についてお知らせください

媒体名	貴社名	
ご担当者名	所属部署	
ご住所 〒		
TEL	FAX	E-MAIL
掲載・放映予定日 月 日 ☐ 読者プレゼント（招待券）を希望する 組 名様（2027年4月末迄掲載対象）		

* 画像 1 点以上ご掲載の場合、本展の招待券 10 枚まで提供します。 / 美術館までの交通費は自己負担のご案内をお願いします。

▼ご希望画像の番号に○印をつけてください。ご使用の際は所定のキャプション・クレジットの記載をお願いします。

広報画像 キャプション・クレジット

- 1 萬鐵五郎《点描風の自画像》1912年頃 岩手県立美術館蔵
- 2 今純三《バラライカ》1919年 弘前市立博物館蔵
- 3 市原えつこ+ISIDイノラボ《都市のナマハゲ - Namahage in Tokyo》2017年
- 4 泉田剛《解体と記憶》2025年 作家蔵 Photo by Hayate Yagi
- 5 おおだいらまこ《食卓》2026年 作家蔵
- 6 小森はるか+瀬尾夏美《二重のまち／四つの旅のうた》2020年 ©KOMORI Haruka + SEO Natsumi
- 7 市原えつこ《デジタルシャーマン・プロジェクト》2015年－
- 8 笹本晃《スピリッツの3乗》2020年 弘前れんが倉庫美術館蔵 Photo by Naoya Hatakeyama
- 9 雨宮庸介《H&T. A,S&H. B&W. (ヒール&トゥー、アップル、ストーン&ヒューマン、ブラック&ホワイト)》（部分）
2022年 弘前れんが倉庫美術館蔵 Photo by Ryo Narita
- 10 ©Naoya Hatakeyama

▼広報画像の掲載について

- ・ 広報画像の使用は展覧会をご紹介いただく場合のみとさせていただきます。
- ・ 広報画像をご掲載いただく場合、所定のキャプション・クレジットを必ず記載してください。
- ・ 全図で使用してください。トリミング、変形、部分使用、文字のせはご遠慮ください。
- ・ 掲載記事、番組内容については、基本情報確認のため、可能な範囲でゲラ刷り・原稿の段階で広報担当までメールまたは FAX でお送りください。

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川

TEL：0172-32-8950 FAX：0172-55-5982 E-mail：press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1

▼広報画像一覧

1



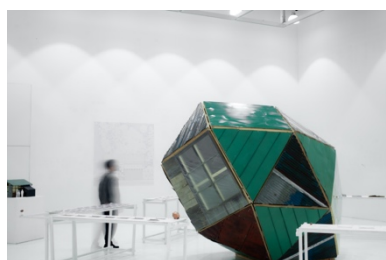
2



3



4



5



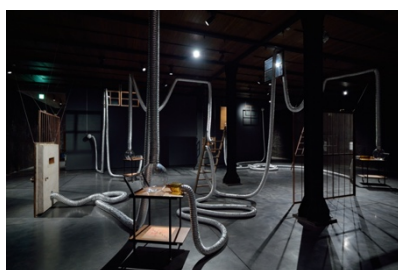
6



7



8



9



10



広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川

TEL：0172-32-8950 FAX：0172-55-5982 E-mail：press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1